

## 資源循環経済へのチャレンジ!

### ◆ グレンカル・シナリー

# バイオマス由来プラ原料などの展開加速

## 日本キャンパック・利根川工場で新型乾燥機の運転開始式挙行

グレンカル・シナリーは、コントラクトパッカーとして国内最大手クラスとなる日本キャンパック・利根川工場(群馬県邑楽郡明和町)の「バイプロ棟」竣工に伴い、バイオマス由来のプラスチック用原材料(フィラー)などの製造を行うために必要な「レドックスマスター新型乾燥機」を設置し、5月19日にその運転開始式を開催した。その模様を紹介する。(取材・文/吉沢文雄)

### 貴重な循環資源の特性や栄養素を維持

今回の運転開始式は本来、昨年11月頃に計画されていたが、新型コロナウイルスの影響に伴い、約半年遅れで実現した。



新たに運転を開始した2台の「レドックスマスター新型乾燥機」

本誌2020年10月号でも既報の通り、グレンカル・シナリーは、2020年7月15日にグレンカル・テクノロジーと鉄建建設、日本キャンパック、農林中央金庫、ユーピーアール、青森県農村工業農業協同組合連合会(JAアオレン)の6社・団体が共同で出資を行い、従来の環境ビジネスが実現できなかった価格競争力のある環境資源再生・循環ビジネスを実現するために設立された。

グレンカル・シナリーと日本キャンパックは、バイプロ棟に設置した2台のレドックスマスター新型乾燥機を用い、飲料製造過程で発生する茶殻やコーヒー豆粕などの副産物(残さ)からバイオプラスチック原料や家畜用飼料などを製造・販売する事業を共同で行う。今回の設置は、一昨年5月にJAアオレンで設置された1号機に続くものだ。

乾燥システム「レドックスマスター」は、グレンカル・テクノロジー社が開発した極低エネルギープラズマ式イオン・活性酸素種等発生装置(MIRA-Mixed Ion Reactive Approach-システム)が発生させる複数種のイオン、活性酸素種により、乾燥促進を行う画期的な乾燥システム。従来の乾燥機と異なり20℃~60℃程度の低温で処理するので、乾燥のために必



**1** 日本キャンバック・利根川工場の「パイプロ棟」 **2** 挨拶に立つ日本キャンバック・池田孝資代表取締役社長 **3** 乾燥機の運転ボタンを押す関係者 **4** 乾燥させた有機物残さと、それを利用したプラスチック原料サンプル **5** バイオプラ用原材料を用いたトレー類 **6** 同・物流パレット

要なエネルギーが極めて低く、処理物を炭化・酸化させず、素材は貴重な循環資源としての特性や栄養素を失わない。バイオプラ用原材料として、コーヒーチェーンのトレーや物流パレットなどに実績を持ち、将来的には食品包装への展開も視野に入れている。会場には、これらのサンプルも展示された。

### 「将来的に残さを全く廃棄しない道筋が」

当日は、午前11時からパイプロ棟竣工式を挙げる。神式に則り、開式・修祓・降神の儀・献饌・祝詞奏上・切麻散米・玉串奉奠と儀式が行われた。

続いて、施主の日本キャンバックから池田孝資代表取締役社長が挨拶に立ち、関係者への謝辞を述べた後で「当社グループでは、地球環境の持続という社会的課題解決のため、再資源化による『廃棄物ゼロ』を環境方針で定めている。現在は製造過程で発生する食品残さの一部を産業廃棄物として処理しているが、レドックスマスター新型乾燥機の導入で、将来的には残さを全く廃棄せず、全てをバイオプラスチック原料や家畜用飼料に再資源化できる道筋が付いた。私どもが目指すべき環

境配慮のこれからの循環型社会の形成に、このレドックスマスター新型乾燥機は大きく寄与してくれるだろうと確信している。当社としては、地域や社会、環境と調和しながら、今後も企業価値の向上を目指してまいりたい」との抱負を語った。

当日は、来賓としてホッカンホールディングスから工藤常史代表取締役会長、鉄建建設から伊藤泰司代表取締役社長、農林中央金庫から松本恭幸特別参与、ユーピーアールから酒田義矢代表取締役社長執行役員が出席。それぞれが、今回のプロジェクトに参画した背景や経緯などを説明した。なおJAアオレンは欠席だったため、祝電が披露された。

続いて行われた運転開始式では、グレンカル・シナリーに共同出資した各社の代表により運転ボタンが押され、レドックスマスター新型乾燥機が運転を開始。式終了後には、施主からグレンカル・シナリーの中石雅仁代表取締役社長が登壇し、レドックスマスター新型乾燥機についてのレクチャーを行った。

なお同社によれば、今年度中にパイプロ棟へ2台のレドックスマスター新型乾燥機を追加設置し、合計4台での稼働を目指すとしている。

